



新泉

〈教育目標〉

人間尊重の精神を基に、心身の調和のとれた発達と伸長を図り、自主性と創造性に富む人間性豊かな児童の育成を目指し、教育活動を行う。

考える子 健康な子 やさしい子

9月号 大田区立入新井第二小学校 R2. 8. 31

校長 古庄 輝男

「遺伝子をONにする」2学期に

副校長 鈴木 康一

2週間という短い夏休みが終わり、2学期が始まりました。今年は新型コロナウイルス感染症対策のため、旅行や故郷への帰省がしにくく、ご自宅でゆっくりと過ごす家庭が多かったのではないのでしょうか。感染症学会理事長の見解では、現在の新型コロナウイルス感染症の状況は、第二波のまっただ中にあるそうです。また、現在は感染症対策に合わせて熱中症への対応も必要です。報道でもあるように、新型コロナウイルス感染症と熱中症の症状は類似しているため、病院でも対応が難しいそうです。連日、猛烈な暑さが続いています。学校でも、手洗い・換気・3密を防ぐ、などの「新しい生活様式」に加え、熱中症対策を行い児童の健康維持に努めます。厳しい暑さのため、ご家庭へ体調を崩した児童の引き取りをお願いすることも多くなるかもしれません。健康で安全に過ごせる2学期にするために、ぜひご協力をお願いいたします。

1学期は6月からのスタートでした。例年に比べて短い授業日数でしたが、教員の努力もあり予定の学習内容は、ほぼ終わることができました。2学期はこれまでの未履修分に加え、2学期の学習内容も行いながら、これまでほとんど行うことのできていない学校行事を如何に行っていくかが課題だと考えています。特に卒業を迎える6年生には、小学校生活最後のすてきな思い出を作ってあげたいと考えています。厳しい状況の中ですが、考えられる対策を講じながら職員一同、努力してまいります。ぜひ、保護者・地域の皆様のご理解・ご協力を得ながら、進めていきたいと考えています。

さて、2学期のスタートにあたり、「遺伝子をONにする生き方」について書いてみます。随分前になりますが『生命の暗号』（村上和雄著）という本がベストセラーになりました。まだ私が学級担任をしていた頃、学級の子供たちに次のような内容の話をしました。

人間の情報は「遺伝子」によって決められています。遺伝子は、スイッチのようにONにしたりOFFにしたりすることができるそうです。例えば、鼻が高い人は鼻を高くする遺伝子が、走るのが速い人は走るのを速くする遺伝子が「ON」になっています。

遺伝子にはONにした方がいい遺伝子とOFFにした方がいい悪い遺伝子があります。物事ができる・できないというのは、遺伝子が「ON」「OFF」になっているかによります。努力して物事に取り組むと、遺伝子はONになります。努力しても遺伝子がONになるまで続けないと、できるようにはなりません。だから、遺伝子がONになるまで、諦めずに努力することが大切です。

人間は30億ある遺伝子のうち、5%ぐらいしか使っていないそうです。それが努力して1%でも余計に使えるようになったなら、その人の可能性は全く違うものになります。遺伝子をONにするためには、努力するだけでなく、物事をよい方へ考える「プラス発想」や「必ずできる」と考える前向きな気持ちが大切です。

1年で一番長い2学期。きっといろいろなことがあると思います。今学期も努力すること、続けること、諦めないことを様々な場面で子供たちに伝えていきたいと考えています。

1年生を迎える会

特別活動主任

7月13日(月)に「1年生を迎える会」が青空の下で開かれました。1年生は、大きな拍手に迎えられ、入場しました。代表委員の6年生から歓迎の言葉が送られ、2年生からは、アサガオの種をプレゼントしてもらいました。全校の前へ緊張した様子で立つ1年生の姿に、上級生は、お兄さん・お姉さんの顔つきで微笑みながら見ていました。今年度は、限られた条件の中で会を行いました。子供たちが、1年生への歓迎の気持ちを拍手に込めていることが伝わりました。全員が一体になったと、感じることでできる温かい会となりました。



サポートルームってどんなところ？

サポートルーム担当

「負けても怒らずに楽しめるようになった。」「漢字の学習方法を変えたら覚えやすくなった。」「人前で話すことに自信がもてるようになった。」「自分の気持ちを友達に伝えられるようになった。」

これらは、サポートルームで学習している児童の言葉です。サポートルームでは、個別指導や小集団指導を通して、困ったときの対処方法を考えたり、自分に合った学習方法を身に付けたり、話し方や聞き方の学習をしたり、友達とかかわることの楽しさを味わったりしながら活動しています。

サポートルームの担当教員は、本校を含め、近隣4校を巡回し、各校のサポートルームで授業をしています。サポートルーム利用についてのご質問、ご相談等がありましたら、担任または養護教諭を通じてご連絡ください。

保健室より

養護教諭

学校が始まり、1週間がたちました。子供たちが学校生活に少しずつ慣れてきて、元気な姿を見ることができ、嬉しいです。一方で、体と心の疲れが、体調に出やすい時期になります。体調管理の基本は、「早寝・早起き・朝ごはん」です。子供が健やかに成長するためには、十分な睡眠と、バランスのとれた食生活が大切になります。朝ごはんを食べると、睡眠中に下がった体温が徐々に上がり、体が活動しやすい状態になります。そして、脳へエネルギーが補給されるため、脳が活発に動きだします。朝ごはんを摂取することで、「生活リズムが整う」「心の状態を良好に保つことができる」といった、よいことがあります。元気な身体で、学校や家庭で過ごしていけるようお願いいたします。

これからも、子供たちが自分自身の健康に関心をもてるよう、子供たちへの指導を大切にしていきたいと思えます。

大人があいさつのシャワーを！！

生活指導主幹

～年間生活重点目標～

◎あいさつをしっかりとしよう

○規律のよい生活をしよう

○正しい言葉づかいをしよう

「子供たちの笑顔あふれる学校にしたい！」私たち教員の願いです。その願いを込めて年間生活指導目標を設定しています。

長い休みの後の子供たちのあいさつは、元気がありません。しかし、6月に学校が再開したときは、緊張した面持ちながら、教職員のあいさつに元気に応える子供たちの姿がありました。ここ数年、入二の子供たちのあいさつはよくなってきています。朝の「おはようございます」、帰りの「さようなら」だけでなく、「こんにちは」のあいさつも聞かれるようになりました。「子供があいさつをするようになるには、大人があいさつのシャワーを浴びせなくては！」と、全教員で確認しています。例年に比べて短い夏休みが明けました。子供たちの元気なあいさつの声が再び学校に戻ってくるよう、教職員は積極的にあいさつの声掛けをしています。ぜひ、ご家庭でも、お子さんにあいさつのシャワーを！！



3つの視点「視覚化」「焦点化」「共有化」をポイントに

研究主任

本校ではユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり、学習環境づくりの研究を推進しています。

「教育のユニバーサルデザイン」とは、誰にとっても分かりやすい支援のことであり、学習方法や校内環境を全ての子供たちに分かりやすく、過ぎやすくするものです。本校では、「視覚化」「焦点化」「共有化」という3つの視点をポイントとして授業作りを行っています。

- ・学習へ意欲的に取り組めるように、電子黒板などで視覚的に示す。
- ・学習課題に沿って学習に臨めるように、課題を明確にする。
- ・学級全体で学習するために、学習したことを表出する場を設ける。

など、様々な方法で子供たちに「わかる」「できる」を実感する授業を日々行うよう努めています。